

<h1>第 360 回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	記録
	企画運営委員長 保 科	企画運営委員 森

◎ 日 時：2023年9月15日（金）13時00分～16時40分（ブレイクアウトルーム12時半～17時半）

◎ 場 所：リモート開催（Zoom）

◎ 出席者：13名（法人会員8名6社、個人会員5名、他0名）

1. 開会挨拶・トピックス紹介、他

13：00～13：08 企画運営委員会

- ・健康管理等について
- ・自己紹介：新入会法人会員 コニカミノルタ(株)様

2. 資料紹介「会員向けホームページ／研究活動の成果について」

13：08～13：24 企画運営委員長 保科 修一 氏

- ・情報提供：研究成果公開（ホームページより）について説明した。
- ・（一社）安全技術普及会開催の機械安全講習会受講のお願いをした。

3. 課題説明「リスクアセスメント再考について」

13：24～14：10 企画運営委員 石原 立憲 氏

概要

巷のリスクアセスメント手法に対する問いかけ 理論的かつ具体的な内容か

課題1：リスクアセスメント基準の社内での位置づけは？

- ① 基準は社内で統一されたものか？
- ② 基準は誰によって承認されたものか？
- ③ 基準の承認者は評価結果が妥当であることを確認しているか？
- ④ 定期的あるいは必要に応じて基準の改訂を行うようにしているか？

課題2：リスクアセスメントを実施する体制は適切か？

- ① リスクアセスメントを実施するメンバーの構成は適切か？
- ② リスクアセスメントを実施するメンバーの能力は適切か？
- ③ リスクアセスメントの結果および残存リスクは誰が最終的に承認するのか？

課題3：危険源を抜けなくリストアップできる手法、特に重篤な傷害につながる危険源（重要危険源）を逃さない手法になっているのか？

- ① 新人が使いこなせる手法なのか？
- ② ベテランだと使いこなせる？（ベテランとは誰？、RA時に確保できる？）

課題4：危害（傷害）のひどさは論理的で、誰がやっても評価結果は変わらないものなのか？

課題5：リスクを見積もり評価するやり方（指標）は論理的、かつ具体的なものになっているか

- ① 危険事象、発生確率の判定基準は、単なる確率ではなく誰でも判定できる具体的なものか？

- ② 暴露の頻度（F）or 時間（T）は評価指標として適切か？
- ③ 危険の回避又は制限の可能性はの判断基準は評価指標として適切か？
- ④ リスク順位を評価する手法はマトリックス法か数値法（加算法、積算法）か？
（数値法で問題が生じないか）

4. 課題討議 ブレイクアウトルーム利用

14：20～16：00 参加者全員

- ・ 上記5つの課題を3つのグループで討議した。
 - さくら：リスクアセスメント再考の課題1、2について討議（4名）
 - あやめ：リスクアセスメント再考の課題3、4について討議（3名）
 - つばき：リスクアセスメント再考の課題5について討議（3名）

4. 課題発表 メインルーム利用

16：00～16：40 参加者全員

- ・ グループごとに討議結果を発表
- ・ 発表に対する質疑・意見・講評

5. 閉会挨拶・その他

- ・ 活発な意見交換が行われた。
- ・ 次回第361回月例会は、10月20日（金）13時00分～16時30分リモートで開催予定。

月例会説明資料：ホームページ内の会員専用ページにて掲載

以上